

新理事紹介

心の双葉を育てる太陽に

昨年、理事の改選が行われ、新たに4名の理事が就任されました。理事会に新風を吹き込んで下さった皆様へ、改めて理事としての抱負を語っていただきました。

全国47都道府県に 運動を行き渡らせよう

昨年、突然に「小さな親切」運動本部から連絡があり、本部の理事に就任するように要請がありました。

年を迎えます。

設立以後も廃止、新設の経緯を経て、現在県内に7つの支部がありますが、40周年を機に各支部を訪問し、各地における過去、現在、未来を話し合ってみたいと考えております。

全国各地の地域組織の実情は、それぞれ違うものがあるようです。

私は平成13年に、広島県本部の代表を拝命し、今日に至っております。かなり長くこの運動にかかわり、古いだけではない実績もなくお断りしようかとも考えておりましたが、「地方の声や意見を本部に反映させたい」との要請でありましたので、浅学、非才を省みずお引き受けした次第であります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私共もみじ銀行と経営統合しており、この運動の先輩でもある、山口県本部事務局の山口銀行におきまして、大変熱心に運動を展開され、広島県とは随分違った運営をなさっているように思います。全国の各支部の実情はつぶさには存じませんが、それはそれで画一的にならないほうが良いのでは、と考えております。

お引き受けした以上は、かなり高齢ではございますが、健康に留意してこの運動の一層の発展のため頑張ってみる決意であります。

私が一番望むことではありますが、50周年から100年に向かってスタートを切った「小さな親切」運動が、全国津々浦々とは言いつつも、あと13県ばかりに正式な本部がないのが

淋しくてなりません。

昭和38年にこの運動を提唱された、中央本部初代代表の茅誠司先生は「このような運動が必要



理事
森本弘道

株式会社もみじ銀行
特別顧問
「小さな親切」運動
広島県本部代表

でない世の中が到来することが一番望ましい」と述べておられますが、今日の実情はどうでしょうか。今しばらくか、ひよっとしたら未来永劫にそのような世の中は到来しないかも知れないですね。そのためにも何とかして、全国47都道府県にこの運

動を行き渡らせたいものであり、皆さんのお知恵を拝借したいところで。鈴木代表や事務局の方々の了解も得ず、小職の勝手なつぶやきであります。

他の人のためになれ 世のためになる人になれ

読者のみなさん、こんにちは！

「小さな親切」運動の理事をおおせ

つかりました、梅森 徹と申します。

運動に参加させて頂くようになつ

て思い出したのは、中学・高校の6年間を過ごした母校のことです。母校は、「他の人のため

になれ。将来、世のためになる人となれ」という教育方針の下、課外の

奉仕活動に力を入れていました。

休日には、重い障害を持った方の



理事
梅森 徹

一般社団法人全国地方銀行協会
常務理事

施設を訪問し、食べものをスプーンで口に運んで、食事のお手伝いをしました。また、交通事故で親御さんを亡くしたお子さんを支援する募金活動にも参加し、毎年、冬の街頭にも立ちました。

電車やバスの座席が空いていても、座つてはいけなさと教えられました。空いているのに、なぜだろうと質問すると、「次の駅で、座席を必要とする人が乗ってくるかも知れない。その際に、座席を譲る準備として、最初から立っているのだ」と教えられるほどと思ったものでした。

かといって、決して堅苦しい校風ではなく、同じ学校の生徒同士は、個人的な知り合いでなくても、先

輩・後輩の隔てなく、気付いた方から、あいさつを交わすのが慣わしでした。また、クラス対抗のソフトボール大会の決勝では、「優勝した〇〇高校の榮譽を称え、校歌を斉唱し、校旗を掲揚します」と、ブラスバンドの伴奏つきで、甲子園の真似事をする茶目つきもありました。行内大会なので、どこが勝っても、歌う校歌と掲げる校旗は同じなのですが……。

縁あって「小さな親切」運動に参加させて頂き、まず、気付いたことは、少年の頃、少しは持っていた奉仕の心が薄れてしまっている自分でした。恥ずかしながら、日々の忙しさや何かと余裕のないことを、おそらくは自分自身への言い訳にして、馬齢を重ねてきたのでしょうか。まず、自身を変え、街なかで困っている人がいたら積極的に声をかける、そして、この素晴らしい運動が広がるよう理事として微力を尽くす、これが大役を拜命した現在の気持ちです。みなさま、どうぞよろしくお願ひいたします。

感謝の気持ちを実践すること 次世代に継承する

昨年「小さな親切」運動の理事に就任しました読売新聞東京本社の竹内です。

弊社では長年にわたり「小さな親切」運動本部理事として参加させていただいております。私も微力ながら、尽力する所存です。今後ともよろしく願ひします。

「小さな親切」実行章受章者数は、累計で五八〇万人を超えたことは、

多くの方々が「小さな親切」を実行されてきた実績で、まさに「継続は力なり」の成果として今後の大きな可能性を感じます。

社会とは、自分ひとりでは歩んでいけません。もちろん自分の努力は必要ですが、周囲の方々の支援、協力の中で前に歩んでいけるもので、周囲の方々に対しての「感謝の気持ち」を常を持つことが大切だと思います。この感謝の気持ちが具体化されて

いることが、「小さな親切」活動として多く実践されていて素晴らしいことと考えております。例えば日本列島クリン作戦、日本列島コスモス作戦、作文コンクールなど長年にわたって継続的かつ全国的に展開されています。



理事
竹内 数也

株式会社読売新聞
東京本社販売局次長

弊社も、今年度第33回となる「小さな親切」はがきキャンペーンを後援させていただいており、「涙がとまらないすてきな物語」など書籍化され、全国の多くの方々に「小さな親切」の行動を共有出来ていることに感謝しております。



双葉に太陽のバッジと信頼の絆

昨年、中央教育審議会は学習指導要領の基本方針を答申しました。児童生徒の「読解力」を喫緊の課題とし、日本の高校1年生の「読解力」が、国際調査で前回の4位から8位となり、平均点も低下しました。改善策として、本や新聞などを活用することを推奨しています。

さらに、「道徳」は「特別な教科」に格上げされ、小学校では平成30(2018)年、中学校では平成31(2019)年から全面实施となります。中学校では「思いやりの心を持ち、友情や生命の尊さを理解する心を育てる」などを主な指導内容としています。まさに、「小さな親切」運動に連動することになると考えます。

また、全国表彰式では、企業の方々を始めとして多くの子どもたちも表彰されています。大人だけでなく、子ども世代に活動の広がりがあることは大変価値のあることで、代へしつかり継承をすることが大人世代の責任と考えています。

今後のご指導をお願いして就任の挨拶とします。

外出時には、50年前にいただいた「小さな親切」運動の実行章である、双葉に太陽のバッジを誇りにいつも襟につけて出かけていました。ところが7年ほど前、長年の使用でバッジの留め金が壊れてしまい、使用することができなくなってしまったのです。

そこで、中央本部へ電話して事情を説明し、新しいバッジに替えていただきました。これが半世紀ぶりに中央本部の方と話すきっかけとなり、現在の理事就任に繋がったのだと思います。

昭和39年、中学1年生の時に実行章をいただき、人を大切にする、思いやりをもって行動することの重要性を教えられ、知識を多くもつだけではなく、教養の高い人間となり、社会生活に活かして活躍することを目標に行動し、常に「人を大切に」としてまいりました。

そして、現在の職に就いたときにも、会社の経営方針を「人を大切に、約束を守ること」「思いやりを大切に、親切を実践すること」として

会社運営を行ってききました。

私が就任する前の業務開始当初は、多くの方が早期に退職していかれましたが、様々な改善を行なった結果からか、この1年間の退職者は全くなりませんでした。毎月

の研修においても、情報誌「小さな親切」や、作品集「しんせつ日和」を教材に取り入れ、経営方針の意図することを、業務活動に活かすよう道徳面を交え、教育指導しています。

「働き方改革」は人を大切にするための改革であり、そのための法律の改正と認識して、法律は人間個人の生活を守るためにあるのだと考えています。それ故に、「心で人を意識した経営」が最も重要な項目であると思います。

機械化は、基礎的には大きな効率化になっていることはもちろん承知していますが、人がチームワークよく、会社を愛し、長く勤めてもらえることこそ、効率、能率向上に大きく役立っていると実感しています。



理事
小林和明

株式会社城南情報サービス
取締役社長

今後も「小さな親切」運動の精神をもって、その時、その場に合った人を大切にする「働き方改革」を推進し、ワーク・ライフ・バランスの実践を図ってまいります。

かつて実行章をいただいた人間が理事になったのは初めてのようです。ので、双葉に太陽のバッジの精神をよく理解している人間として、理事会に設置された「東京オリンピック・パラリンピック準備委員会」担当としてだけでなく、その他の行事にも体調を考慮しながら参加していきたい活動の輪をさらに広げていきたいと思えます。